

～健康的な歯 いつまでも～

歯周病検診を 受けましょう！



市の歯周病検診 **(無料)** 対象者年齢

30・35・40・45・50
55・60・65・70 歳

問合せ先 健康福祉部長寿健康づくり室 (あいあい ☎84-3316)

7月から市の歯周病検診が始まります。
今年度から対象者を拡大し、対象者の年齢を5歳刻みに！

歯周病とは、歯と歯ぐきの間(歯周ポケット)に歯周病菌が入り、歯肉が炎症を起こす病気です。初めは症状がないので、気付かないうちに進行していきます。放っておくと、歯の周りの骨が溶け、歯がぐらついたり、歯ぐきが腫れたりして、ついには歯が抜けてしまいます。

市では、健康的な歯をいつまでも保つために、歯周病検診を重要な検診と位置付け、今年度から対象者を拡大しました。

30歳、35歳、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の5歳刻みの年齢の人が対象となります。

この機会にぜひ、歯科医院を受診し、プロフェッショナルケアを受けて、お口の健康づくりに努めましょう。



<平成29年度 歯周病検診>

実施期間

7月1日(土)～平成30年1月31日(水)
(実施歯科医院の診療日、診療時間内)

対象者

市内に住所を有し、右表の生年月日に該当する人
※総義歯の人、歯科疾患で定期受診・治療している人は対象になりません。

※対象年齢の人には、「歯周病検診無料券」を市から発送しました。対象者で届いていない人は、健康福祉部長寿健康づくり室へお問い合わせください。

実施歯科医院 (亀山歯科医師会所属協力医院)

「歯周病検診無料券」をご確認ください。

検診料 無料

対象年齢	生年月日
30歳	昭和62年4月2日～昭和63年4月1日
35歳	昭和57年4月2日～昭和58年4月1日
40歳	昭和52年4月2日～昭和53年4月1日
45歳	昭和47年4月2日～昭和48年4月1日
50歳	昭和42年4月2日～昭和43年4月1日
55歳	昭和37年4月2日～昭和38年4月1日
60歳	昭和32年4月2日～昭和33年4月1日
65歳	昭和27年4月2日～昭和28年4月1日
70歳	昭和22年4月2日～昭和23年4月1日

■歯周病検診を受けてほしい理由

まず

成人の約8割が歯周病にかかっていると言われています。

そして

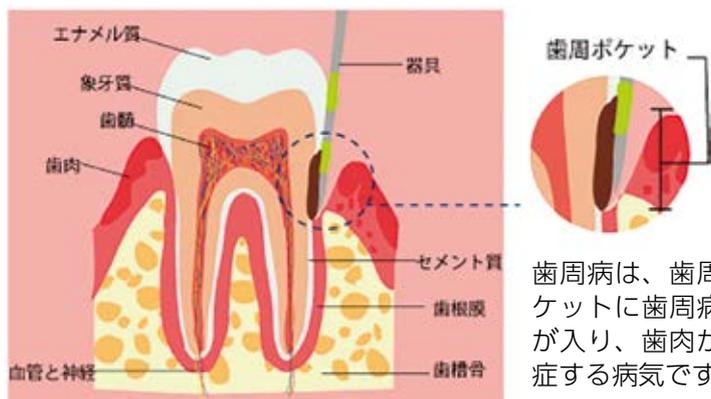
日本人の歯を失う原因第1位です。

しかも

全身への影響があるにもかかわらず、自覚症状がほとんどないまま、静かに進行していきます。

それでも

自己管理や早期発見・早期治療することで改善することもできます。

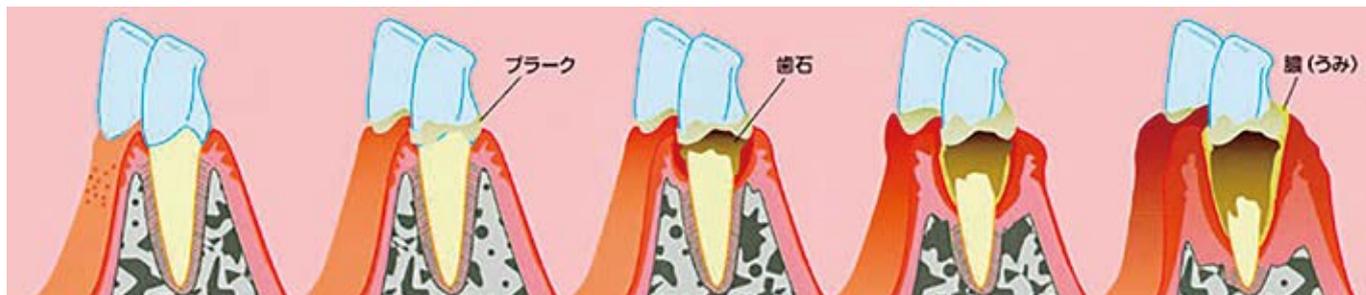


歯周病は、歯周ポケットに歯周病菌が入り、歯肉が炎症する病気です。



放っておくと歯周病が進行して、歯が抜けてしまうことも！

■歯周病の進行状況



健康な歯肉

歯肉が健康な時、歯は歯周組織によりしっかり保持されています。



歯肉炎

歯の周りにプラーク(歯垢)がつくことで、歯肉に炎症が起こり、歯ぐきが腫れるようになります。



軽度歯周炎

歯周ポケットが深くなり、歯を支えている骨(歯槽骨)が溶けて喪失しだします。歯を磨くと出血も見られます。



中等度歯周炎

歯槽骨の喪失が増え、歯が動くようになります。膿(うみ)が出ることもあり、口臭も気になります。



重度歯周炎

歯槽骨が3分の2以上喪失し、歯がグラグラになり、やがては抜けてしまいます。口臭は、よきつくなります。



■歯周病は全身に影響するこわい病気です！

歯周病は単なる口の病気ではありません。最近では、さまざまな研究から歯周病と全身の健康との関係性が次々と分かってきました。

例えば、糖尿病で歯周病がある人は、糖尿病が改善しにくいか、悪化してしまうことが分かってきました。ほかにも、心臓病、誤嚥性肺炎、低体重児出産、骨粗しょう症などの関連も指摘されています。



歯周病は、放置すると大変な事態をまねく病気です。定期的に歯周病検診を受けて、早期発見・早期治療につなげましょう。

